

「地域に根ざした研究・普及サイクルのシステムづくり」について

－研究成果の普及とニーズの把握－

企画指導部 普及課

はじめに

林産試験場、林業試験場では、平成 15 年度から「地域に根ざした研究・普及サイクルのシステムづくり」事業を展開しています。本事業は、両試験場が支庁林務課や森づくりセンターと連携を図りながら、地域の特性を生かした森林、みどりづくりの技術向上と木材利用の拡大を図るために進めているものです。また、関係企業・団体や一般道民との意見交換を行うことにより、研究成果の効率的な普及や実用化を図るとともに、新たな研究ニーズを探ることを目的としています。

平成 17 年度で道内 6 圏域を一巡したことから、事業の概要と今後の展開について、主に林産試験場の取り組みをご紹介します。

事業のイメージ

広大な北海道は、地域によって産業構造がかなり異なっています。また木材関連産業においても、天然林の資源状況、人工林の樹種の違い、外材への依存度、消費地からの遠近など、資源背景や需要構造

が地域によって大きく異なっています。このことから試験場の研究成果の普及にあたっては、地域の実情を十分把握しなければ思うように実用化や技術の定着ができません。このため、本事業では研究成果の地域での普及と課題（ニーズ）把握を、次のように進めています（図 1）。

まず、支庁や森づくりセンターから得た地域情報をもとに、試験場の研究成果からその地域に合致する課題を選定し、地域展開を効率的に行うための整理を行います。それを、フォーラム等の技術交流会や現地検討会の開催、企業巡回などとおして普及を図ります。研究成果がそのまま活用できればよいのですが、実用上の課題や更なる検討項目が明らかになったものについては、新たに研究課題の設定などをして検討を進めます。このようなやりとりを試験場と業界団体や企業の間で行うことで、具体的な成果の活用と定着を目指しています。

取り組みの概要

第 3 次北海道長期総合計画の六つの地域生活経済

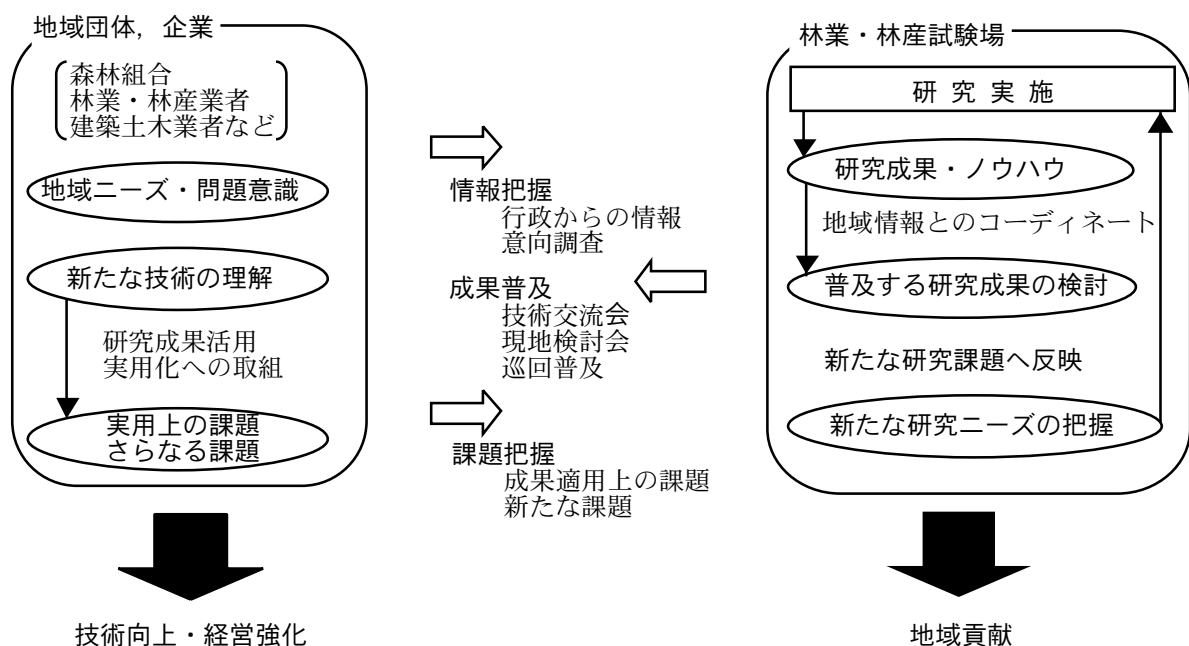


図 1 「地域に根ざした研究・普及サイクルのシステムづくり」事業イメージ

表1 事業実績一覧表

年度	圏域	事業実績
H15	道北	<p>○技術交流会 「森林環境フォーラム」 平成15年8月31日（日），名寄市民文化センターにて開催。来場者約120名。 ・森林づくりと地域材利用の共存をテーマとし，市民団体と連携した行政の取組み，土砂災害に対する森林の役割，森林の再生技術，木材利用の利点などを紹介。</p> <p>○取組成果 ・道立広域公園サンピラーパーク内のカラマツ林の混交林化について，森林の造成技術を提供。また，公園センターハウス等の内装，床材，公園の外構等へ間伐材を活用した技術の導入について，市民団体のワークショップを通じ普及。</p>
	根釧	<p>○技術交流会 「森林技術フォーラム」 平成15年9月16日（火），釧路市民文化会館にて開催。来場者約140名。 ・広葉樹林や河畔林の造成技術，炭に着目した木材利用技術などの紹介。</p> <p>○取組成果 ・厚岸町有林の広葉樹植栽木の枯損原因の究明や別海町有林の河畔林造成技術について情報提供を行い，管内の森林所有者，業界，森林組合に対し，現地検討会を通じて広葉樹造林地の育林方法，エゾシカ被害対策の現地指導を実施。 ・未利用材の有効活用をテーマに研究成果を提案し，地元企業と受託・共同研究を実施。</p>
H16	オホーツク	<p>○技術交流会 公開プラザ「オホーツクの林業・林産業」 平成16年10月14日（木），紋別市文化会館にて開催。来場者約180名。 ・遠紋地域の森林資源・利用，地域からの報告，今後のカラマツ林業についてパネルディスカッションなど（写真1，2）。</p> <p>○取組成果 ・カラマツのブランド化をテーマとした技術交流会により，企業要請を受けて，カラマツ材の品質向上へ向けた展開の支援や，集成材の品質向上を支援する研究を展開。 ・道立広域公園オホーツク流氷公園の施設整備にあたり，緑地づくり，施設整備での木材利用を働きかけ，「ゴムチップマットを利用した大規模温水床暖房システム」を実施設計に反映させた。</p>
	道南	<p>○技術交流会 「ブナ林再生のための技術研究はどこまで進んだか」 平成16年8月2日（月）～4日（水），函館市勤労者総合福祉センターや道有林の現地を利用した事業を実施。来場者約70名 ・ブナの更新生態とその再生に際しての課題ブナ林の再生技術に関する研究成果などを紹介。豊作年に合わせた天然下種更新施業の試みを現地検討会で紹介。</p> <p>○取組成果 ・ブナ林の再生の技術交流会を通じ，種苗業者に対し，種子の長期保存技術や種子の豊凶予測技術を提供，地域におけるブナ苗木生産体制整備を支援している。 ・道有林でのブナ林造成のため，豊凶予測を利用し，次年度の地表処理事業箇所の選定等，事業計画に反映させ，効果的なブナ林再生を図っている。これらは，平成18年度からの研究課題としてスタート。</p> <p>○技術交流会 「どうなん杉利用促進交流会 地材地消を共に考える」 平成16年11月17日（水），木古内町中央公民館にて開催。来場者約130名。 ・道南スギの現状，「どうなん杉と住まいを結ぶツアー報告」，スギの乾燥技術と内装材としての特徴，パネルディスカッション「住宅資材としてのスギの利用を考える」の実施など。</p> <p>○取組成果 ・スギ材の利用促進をテーマとしてスギ材を利用した成果を提供し，参加企業の地材利用として構造用スギ集成材の展開を支援することとなり，品質の高い集成材技術やJAS認定に向けた技術支援等を実施。</p>
H17	十勝	<p>○技術交流会 「カラマツ材の利用促進に向けて～林業・林産試験場の研究成果から～」 平成17年9月15日（木），帯広市とかちプラザにて開催。来場者約120名（写真3）。</p> <p>○取組成果 ・カラマツを使用した高性能木製防雪柵（写真4）を技術交流会で紹介し，道道，市町村道での設置を図るため調整中。 ・グイマツ雑種F₁の低密度植栽技術について紹介し，森林所有者，市町村，森林組合をターゲットにして，平成18年の造林実施に向け調整中。 ・車椅子を利用する人の森林利用について道南の事例などを紹介し，十勝における福祉施設をターゲットとして，平成18年の実用化に向け調整中。 ・カラマツ材の利用について事例紹介し，研究成果の導入を支援。</p>
	道央	<p>○技術交流会 「もっと使おうカラマツinしりべし -地域材利用の最新情報-」 平成17年11月16日（水），倶知安町，ホテル第一会館にて開催。来場者約170名。 ・低コスト林業技術，カラマツ材を使った住宅建築，エクステリア製品などを紹介。</p> <p>○取組成果 ・グイマツ雑種F₁の種苗生産状況やコスト軽減を図った施業を紹介し，森林所有者に対しグイマツ雑種F₁の利用を働きかけ。 ・カラマツ材の新たな利用を紹介し，参加企業のカラマツ材を利用した床材等への新規展開について技術指導，技術支援を実施。</p>



写真1 オホーツクの林業・林産業公開プラザ



写真3 林産試験場の展示



写真2 網走でのカラマツ住宅現地見学会



写真4 カラマツ高性能防雪柵

圏ごとに地域性を分けて考え、単年度2圏域を対象として、3年間で全道6圏域すべてにおいて実施してきました。本事業での具体的な取り組み概要を、表1に示します。

本事業をきっかけとして、受託研究や共同研究に結びついた事例もあります。また、企業巡回では、企業のニーズに応じた研究成果やノウハウを活用した提案を進めており、例えば製材工場での製品整理の合理化を図るための「栈入れ装置」や、強度の高い建築用材を得るために原木段階で強度区分を行う「簡易強度測定装置」の導入に向けて支援を行っているところです。これらの成果の実用化により、製造コストの低減、強度性能を明示した製材品の流通が可能になるなど、業界の体質強化につながるものと期待しています。

今後の展開

刑事ドラマでは、「刑事は現場を百回踏め!」、あるいは「事件は会議室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ!」などという台詞を聞きます。卑近な例を挙げましたが、私たちの研究計画の立案や成果の普及にも当てはまるものだと考えています。木材関連産業の現状や、地域や個々の企業が抱

えている課題を本当に理解するためには、体感することが大切です。そのためには、足繁く現場（現地）に通う必要があるでしょう。

本事業をとおして、私たちも多くの方々にお会いしご意見を聞く機会を持つことができました。時には製造現場をじっくり拝見し、工場管理をする方との踏み込んだ意見交換を通じて、私たちの成果を使っていたり、更に実用化に向けた共同研究などに発展させてきています。これらの新たなテーマは、研究室にこもっていても知ることができないものもあり、新たな発見と出会いが私たちの大きな財産になっています。

本事業は、平成18年度から二巡目を迎え、企業巡回を重点的に進める予定です。林産試験場では、支庁林務課、森づくりセンターと連携を図りながら、各地で開催される業界団体の総会や勉強会などの機会を捉えてはお邪魔し、研究成果について説明し意見交換をさせていただきたいと考えています。また、企業巡回は研究課題を明らかにしていくための宝箱との意識で、具体的な情報交換や課題の整理を一緒にさせていただき、皆様の課題解決のお手伝いをしていきたいと考えていますので、よろしくご協力をお願いいたします。